

ミツカン水の文化交流フォーラム2003 開催のお知らせ

## なぜいま 里川なのか コンパクトシティを考える

身近な自然を表す言葉に「里山」という言葉があります。「暮らしの中で使いながら大事に守られた共有の山」というのが「里山」に込められた意味とあってよいでしょう。

では、山を川に置き換えて「里川」と言ったらどうでしょうか？農地、郊外地、都市、それぞれの場所で、みんなで守る共有の「里川」があってもよいのではないのでしょうか？

里川を考えてみる。それは、都市や地域の水

と居住者がどのようにつきあうかを考えることであり、コンパクトシティと呼ばれる次世代の都市像に「水の循環」という視点を付け加えることにつながるのではないのでしょうか？

当センターではこのような考え方のもと、本年度のフォーラムを開催いたします。水に関わる研究者や政策関係者、環境や文化を通じた地域づくり等に関わる方など、幅広い方々におこしいただきたく、是非ともご参加を御願ひ申し上げます。

日時：10月20日（月）13時～18時 18時より交流会を開催

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー26階 スカイホール

東京都千代田区富士見2-17-1 JR市ヶ谷駅・飯田橋駅より徒歩約10分

プログラム(予定)

<p>特別講演</p>	<p><b>「水に対する感性の歴史」</b>                      アラン・コルバン ソルボンヌ&lt;パリ第1&gt;大学 同時通訳がつきます。                      コメンテーター 高橋 裕 国際連合大学上席学術顧問・東京大学名誉教授</p>
<p>テーマセッション</p>	<p><b>「なぜ里川とコンパクトシティか？」</b>                      陣内秀信 法政大学教授  <b>「セーヌ川も里川だった」</b>                      嘉田由紀子 京都精華大学教授 琵琶湖博物館研究顧問 水と文化研究会世話役  <b>「バーチャルウォーターが結ぶ里川と世界の水問題」</b>                      沖 大幹 東京大学助教授  <b>「都市の水辺遊びからつくる里川」</b>                      鳥越皓之 筑波大学教授</p>
<p>パネルディスカッション</p>	<p><b>「里川の文化モデルとコンパクト社会」</b>                      セッション発表者によるディスカッション / 参加者との質疑応答</p>
<p>交流会</p>	<p>参加者・発表者との情報交換</p>

詳しいお問い合わせは当センター事務局まで御願ひ申し上げます。

# 水の文化15号予告

## 特集「里川の構想」(仮)

「里」は人が住んでいる自然の多い土地の意味。  
人里、里山、里居、浦里、里犬・・・  
里に住む人が多くなれば  
里人と川とのつきあいかたも変わりそうです。  
里川はわたしたちが抱く居住や都市のイメージに  
何を与えてくれるのでしょうか。



### 「第9回水にかかわる生活意識調査」発表

1995年より毎年実施している「水にかかわる生活意識調査」も今年で9回目となります。東京、名古屋、大阪の600名を対象に行っているアンケート調査の2003年度最新版を、当センターホームページにアップロードいたしました。社会の水意識を読む基本データとしてご活用ください。

### 『水の文化』に関する情報をお寄せ下さい

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などをご紹介します。まいります。

ユニークな水の文化楽習活動を行っている、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究を行っている、こうした情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### 水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はモノクロで皆様に配布しておりますが、写真をはっきり見たい!というご要望にお応えし、11号からはホームページにてカラーでバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

ホームページアドレス <http://www.mizu.gr.jp/>

### 編集後記

この5月より「水の文化センター」の担当になりました。その初っ端が、この「14号」の取材。「京都の謎」「京都の水」に迫る今回の企画は、日本史の原点を探求するテーマでもあり大変興味深く取材することが出来ました。また、これに関わり合う人たちが、とても活き活きとしていてパワフル。これは、研究者、NPO活動家など主体的に取組んでいる姿勢がそうさせるのだと強く感じました。私も、せめて意識のレベルだけでも同等に向き合っていきたいと思えます。(吉)

1200年という京都の歴史は魅力的だが、一見平凡そうな京の暮らしを垣間見ると、普段の生活を大事にしている人の気持ちに心が響き、もっと知りたい、また来てみたいと感じてしまふ。京都の魅力は生活文化にあり、ということか。(日)

最近「京都」をテーマにしたムックや、雑誌の特集、そしてテレビ番組などが目につきます。それぞれが色々な角度から京都を斬っています。さて、今回の水の文化センターの京都特集はいかがでしたでしょうか?ご意見お待ちしております。(ゆ)

弱弱問答という落語がある。旅僧がしかけた禅問答を、住職に化けた弱弱屋主人が受け答え、双方勝手にわかった気になっている内に、旅僧が「あなたのような高僧にはかかないません。参りました」と勝手にしやっぽを脱ぐ話。世界水フォーラムは、異なる文化を背負う人同士が「わかる」ことの意味を考えさせてくれた。(中)

ミツカン水の文化センター機関誌

## 水の文化

第14号

ホームページアドレス  
<http://www.mizu.gr.jp/>

禁無断転載複写

発行日 2003年(平成15年)8月

企画協力 嘉田由紀子 京都精華大学教授 琵琶湖博物館研究顧問 水と文化研究会世話役  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会  
陣内秀信 法政大学教授

編集 吉田 稔 小林 信 日比野容久 小林夕夏 中庭光彦 賀川一枝 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター  
〒475-8585 愛知県半田市の中村町2-6  
株式会社ミツカングループ本社 広報室内  
Tel. 0569(24)5087 Fax. 0569(24)6353

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 東京事務局  
〒143-0016 東京都大田区大森北2-2-10・4F  
Tel. 03(5762)0244 Fax. 03(5762)0246